楊柳文庫

七

へ13
3330
7

門 へ13
3339
巻 7

陽

陽文庫

陽文庫

大正十八年九月寄贈
本大學出版部

西遊陽物文庫卷之七

三年又ちをおこる事

兵舎人三年を勤ること十ヶ年

まことを牛ふものはまことく

よきものくあくまものくあくを

舎人ぐ左傷を清ぐ「と牛

ぐ三年ぐ家ぐ叫よ叫ぐ

[illegible]三年あり作
[illegible]を歩[illegible]れば四山
[illegible]を見て三[illegible]
[illegible]の書を[illegible]
[illegible]くと[illegible]
[illegible]丁と[illegible]や業[illegible]
三年[illegible]と[illegible]
書を[illegible]

[illegible]
[illegible]三年が[illegible]
[illegible]きと[illegible]れば[illegible]
[illegible]を目[illegible]
[illegible]一[illegible]とう[illegible]を三年
[illegible]を[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]例[illegible]

をうこれを見てうらもまた
ものくしやとふかよる
雅をかうして家をおてうる三年
いうして比叡をまた六波羅
を喜てもし祇をかふ
い行年ごとにふかたよ
万ものつのつ至たる
長力をうづしてつらひ

しが三年ぐらやを業また六
ぐらを作りとくあたをとろ
そうと押ひのけ外へと
そくしが又たの
口の石家ゆて長
市れば流行の又六見ける
例れふ作三年今は公易し
とうづうを家ものを婦

へ行脚引寄墨くろぐろとさう
又ちがうた法い日本笑みのかな
さう右の角ちかうたのやる
中毎日此方ひろうたべ
くんきちの用ゐ方さ
どうくも経てよい所をと
乙ぢ乙へ浦の事してこと祈
ちづくるを見て「と有のよ問

よ家内の者上へとと聲ぐ
声しかれば来やよ
おのれ事と物語
ゐて家内へ戻て
方を浴て来ちう
又ちの仰せよ
ふ先ぐよいき
を見合せて来よ

とちきれもてなすこと
へ長助の書りて所々
てこれはいつよりとこ
ひとくこと葉をそろへ
きへの流へ書りて
しとりあつめ金兵衛
を付て行ふとこ
もありし三年ぶり

なの口あり流へとあつ
りものごとく毎年
きのば和年の
らしが皆者れ
ばまるあまれて
事少へよ稽へ連りて
ヒ毛流とこ流うもげし
き事ヒ流よ絶たうヒ流

いまもうくらうちたてまつりよ
りて拾く書を三年まで
生長のうち祈りおうけし
よ三年ぶ事月ごとのごくあれ
ばれども三年半ばかりよ
那れ陰よりて命をつと
そうぶ生長のうちを祈り
られりしくたてまつれを

三年四月よ那一事日ありて
命きみを三年のびび
自然をもりて命とつくも四月
月命ぶ撰年一
髪月をもぶ三年ぶ
むりよ陰合もくくとつくも
祈りよ三年ぶ命よりて
年をもひーーぶ今りぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の如部ちうしゅう家新夏人鞠如
やくらの旬に書とうに衣を
ありしとぬが作れの果
やくこの中をうに陽年
のうちやて家うに作助とうふ
とのく仏作ように人目
えのげのやの衣妻ちうと
書をうのうとれみた

が員年よりあうとを集をめ
て単気の後を明ケ金百年を
出すうを作助ちうも作玉
ともうく垂年人ちうれ又たいうれ
先方合うう年限うう歳
げうをうて白猫げどや
うとうく猫よつれ
ごとく拒絶うてた唐ちう

よ離ゞ仕業ありやと又たゞつよ
二月の末ゝ命を法華
百ものの外一日も家
持の手伝をすと爲ちゝ
光明を丁寧にかれ乙丑
四月ちまでに
東のごとく祈ちゝ出ん
命ゝ仕ゞ
れちゝ

家を作つけ命を
世の中家人の四ちゝ
ちまちよ諸仏一日の
利益といへども
今文殊の第ちと
人ごとよりちの事世上
よあれちれば金
の毒よあるひの三年を過て

[illegible]は[illegible]年[illegible]れ
[illegible]と試合[illegible]れ[illegible]
[illegible]年の事[illegible]
[illegible]の飲む蛇[illegible]を教
[illegible]年[illegible]仕合
[illegible]
い看板を[illegible]を書て
[illegible]い[illegible]

[illegible]者[illegible]同じ[illegible]武士の者
[illegible]を書[illegible]
[illegible]と試合[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]代の士[illegible]を出て
若輩[illegible]家を去[illegible]今泰平の世
[illegible]百一[illegible]
[illegible]白丹の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又たゞ生涯の有様を形容
し、と所の名所旧跡を新て恋に
新言葉をうれをうち捨置時分に
所の名あれと一和歌よりあるい
しゞあるうち今の浦海
里邪もうれ新しく年
所の山橋塩をうちばゝ作し
てうちうゞと所うゞうち新

ちうあ作りあうち山家
の御名をいつよりもを年
うゞうつりうちうるうちう
きよ人の歳月を嘆ふまの
紀貫又たゞのくうれ家とと
うの比ちうまて不
役うゞうも三年を御尚ちう
うのあゞしめ到ちう

出仏のしるしを学びもちゐたる
の仏会を修ふ あるいは三の面
うるびに新土の三乗地の四教
面うるのとを仏を学うして又
仏も出うるかどをうばうして
四方を出したかどよりて仏を
まおのうるびうるたた
自ふるとをして三年ちりよ

うるうびに仏会新ひちうる長年
ばうれいぎうばとうる年明を
しうるをおいて仏に引とも
教をうるもあるいの教を
うるうでうるれて長者も
うるるばに仏をうるうちおい
ちれどうるをのうるれよとうる
まうて三年うるびうるうるぐ

仙石
仙石
抄

行先とてもちがはざる事
父ののりよりこれの時吉田の
やまくにの長州屋敷
なるものとつふやの神田
より作右衛門殿社のを新
しく家を家しゆ家もはば
神田まで出るとも出ずとも
言葉無してこれをなる

金くに書よりこれ三年より書
を作らる事
朝て金くに三年ぐらはの
事をあるして勘商
ともやしく楽が御御より幸せ
事を御御より神ぶ書を
でりこれは三年い家家を
切よあるよ古ぐつ代ども

が死にたる人をあはれ
いたましくとなげき
して涙をながす
やがてしてあつて
是をもつて為書をなす
涙をながす人を
てにやはらげて
御ふみを繁く
涙をながす
御ふみを
くくりたる人を
しるひ死をもつの
中に稀なる中の
あること
面白くてくれ
なるあるべし

入るとりくどもむかう御合
のくるをあつてをふ
くくりたる人を
しるひ死をもつの
中に稀なる中の
あること
面白くてくれ
なるあるべし

[illegible]して[illegible]三年
[illegible]の御書をうつして[illegible]
[illegible]仕[illegible]
[illegible]して仕[illegible]
[illegible]
[illegible]三年
[illegible]
[illegible]仕[illegible]
[illegible]

女の[illegible]して[illegible]
[illegible]の仕[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]三年[illegible]
[illegible]早く仕[illegible]
[illegible]三年[illegible]
[illegible]

此間よりかたをあてうつくしく
ぬかあるうつくしくの文言四人
三年五年はあれば紙仕うらく
ども此事面のみよりよりは先生の
おぼしめしにもいうまよりの上
仕うらくくとのうまよりつぐと
もに上達うらくは今人も金
のうへあてうらに若しうらぬ

うらうらくとにうらうれば志うれば紙
上仕うらしとて三年は表紙着う
てきうらうまよ今人い一月を建
きう給と志うと志御よ隠れ居
ううらうおぼいう三年を一月へ通
し今日此年のうまに年外の家
みてもに庭うく今人物多此麗
うて事面い後しうくども毎

御移れの山なく毛侍て美
毛し事うなゐ神くの御あれあ
まば和うを知うを伝授い
ま一家より伝うを秘書ども毛を
うより伝うを知て和歌
文あて伝毛ど
うを伝しの
うび歌伝ぐと和よ毛の
毛ぐ伝うを知れん

と則ちあうして教くうれば
三年美の美毛ち知して悟
び事と又六事熟の秘術をう
て先生の心流家を思い毛ん
事三年より御の伝合い毛ん
心動音を美ち毛く悟うと
うと毛うしよ毛く
ぐ毛ん御ぐ伝毛と毛よ

すゝ付て祝上もうれ師の方君
と金〻へ言を申し奉るべく
三伺九伺止ざうゝ山動者も
ゆうきセうゝと此神なくまれば
うゝ生ぐく世〻の山谷墓を
ゆゝ伝授の書は格別たよふ
の方沢ゝとも吋ふ自じとつふ
ゆゝ三千の里此うゝと方ゝと

和書をうゝ寄して三日ゝて密
よ五しうゝ師者の石どゝて
ゝ敬〻と言ぐし法ゝれ
よゝうゝ和ゝよ三千い唐別石者
よ世作よゝうゝ言ぐゝく者者
しゝとゝ術教文三帝石高免
して世老ゝ紀ゆゝ教教の者
ゝきよ教ゝき悔三千を等

[illegible]

[illegible]

[illegible]